「６年制薬剤師が求める・求められる薬業界の現状と展望」をテーマとした一般シンポジウムでは、２年後に初めて誕生する６年制薬剤師の需要と供給について、大学側と採用側のシンポジストが熱心なディスカッションを繰り広げた。

６年制薬剤師の需要と供給で討論

高まる期待、拡がる役割

中込氏

「薬剤師は、2020年には13万人余ってくる」「医学部、歯学部と終了年数が同じなのに、薬剤師の平均年収は563万円（男性）と低い」など、６年制薬剤師の就職に関してネガティブに報道するマスコミも少なくない。一方、12年に初めて誕生する推定7500人の６年制薬剤師については、「２年間卒業生が出ない空白を経て、誕生するため、数年間は売り手市場になる」との予測もある。

このような現況を踏まえて、中込啓一氏（武蔵野大学薬学部）は、私立大学で「キャリアデザイン」、就職委員を担当する立場から、６年制薬学生の就職について展望した。

中込氏によると、日米の薬科大学の学費と薬剤師の待遇を比較すると、卒業までの学費は、米国の公立で870万～1600万円、私立で1700万円、日本の公立で350万～390万円、私立で1150万円程度と差が見られている。

薬剤師の年収は、米国の薬局で940万～1020万円、病院で950万円、日本の薬局で520万円、病院で580万円。ちなみに、両国の大卒の平均年収は、米国で530万円、日本で610万円となっている。

中込氏は、「父母側は、高い授業料に見合った待遇を望んでいるが、日本の薬剤師の年収は、米国の半分程度に過ぎない」と指摘。さらに、「日本では、従来から薬剤師より他学部出身の大卒者の方が年収が高いという現状も認識しなければならない」と述べた。

その上で、６年制薬学部卒業生の特性として、①薬剤師の受験資格は６年制薬学部のみである②出口（学士）の質的保証③実務実習で実社会に長期間曝露され、コミュニケーション力を鍛えている④ＣＢＴ、ＯＳＣＥ、実務実習、卒業研究、卒業認定試験、薬剤師国家試験など多くの難関を乗り越えている――などを列挙。

「薬剤師としての素養に加えて、基礎力としての実行力、知力、協調性を兼ね備えた人材が採用できる」と採用側にＰＲし、併せて「人材を育てて、キャリアデザインを描ける職場環境、機会を与えてほしい」と要望した。

中込氏は、採用側の動向についても「薬局では、４年制より新卒の６年制薬剤師の採用を積極的にしたい考えがあるが、給与の上昇は難しいとしている」と紹介。さらに、「病院も６年制薬剤師を欲しがっているが、現実的には欠員補助程度の募集になる」と予測。最後に、「社会が６年制の薬学生に対して２年分の人間的醸成を求めていることを認識しなければならない」と訴えかけた。

児玉氏

一方、日本薬剤師会の立場から児玉孝会長は、「６年制薬学教育が目指すべき究極の目標は、“医療人としての心構えを持った薬剤師”の養成にある」と大学側に重ねて要望。

今後の薬剤師数の増加に伴う職場確保が懸念されていることについても、「薬局業務からは、健康相談等セルフメディケーションへの支援、地域におけるチーム医療への貢献、在宅医療など、社会から求められる薬剤師の役割は年々拡大している」との見解を示した。

一方、製薬企業の立場から講演した石川裕子氏（ノバルティスファーマ）は、「薬学の知識に加え、実際の患者さんの近くで学ばれた人材が、患者視点でＭＲとして情報活動を行うことは大きな特性となる」と指摘し、６年制薬剤師への期待の大きさを示した。

研究発表する高校生演者（上）と、聞き入る高校生たち

“将来の薬学生”に期待

高校生シンポを初開催

130年会では、年会初の試みとなる高校生シンポジウムが企画された。高校生の理科離れ対策の一環として、薬学の面白さをＰＲすることを目的に企画されたもので、シンポジウムでは、早津彦哉氏（岡山大名誉教授）が、自らの経験を交えて、実験や研究の面白さについて講演。その後、中国・四国地方の14高等学校の高校生が、「薬を飲むときの最適条件の探索」「ビタミンＣの定量」など無機化学、物理化学、動物学に至るまで、多岐にわたる研究テーマについて発表した。

講演で早津氏は、「数学や理科は、記憶学科でないところに魅力がある」と強調。「研究は、自分で課題を考え出せるようになったら非常に面白くなる」とし、「そのためには、まず、知識を蓄えることから始めなければならない」と訴えかけた。

また、早津氏の研究成果の１つとして、現在の癌遺伝子探索研究のバックグラウンドとなった「過マンガン酸カリウムと、核酸を構成する塩基（チミン、シトシン、アラニン、グアニンの反応」を高校生の前で実演し、参加者の興味を引いた。

miki pharmacy
ミキ薬局
首都圏での店舗展開
東京都：17店舗　神奈川県：5店舗
埼玉県・千葉県・山梨県・栃木県：各1店舗
私たちと一緒に、
未来を描いてみませんか！

http://www.mikiblog.com/tabeshinbun/

http://www.miki.ne.jp

人と人とのコミュニケーションを育みたい。
そしてそれが大きな幹（ミキ）から伸びる枝葉のように、
未来に向かって広がってほしい。それが私たちの希いです。
株式会社 メディカルファーマシィー
人材開発部　saiyou@miki.ne.jp
本社：〒162-0056　東京都新宿区若松町9−12 KSビル 2F　TEL 03-5368-2011
設立/昭和54年2月　資本金/5,000万円　売上高/114億円　従業員数/250名（薬剤師167名）